



1

1.卵型ケース入り香水瓶セット
フランス/18世紀
ポーラ文化研究所蔵



2

2.くるみケース入り香水瓶セット
イギリス/18世紀末
ポーラ文化研究所蔵



3

3.菊文香水瓶
エミール・ガレ/フランス/1910年代
ポーラ文化研究所蔵

香りとファッションの美学展

L'exposition Esthétique du Parfum

～ 香水瓶が魅せる美の世界～

2014.4.19(sat)～6.29(sun)

開館時間：9:00～17:00(入館は閉館時間の30分前まで)

休館日：5月20日(火)、6月17日(火)

入館料：一般800円、団体(20名以上)700円、中学生以下無料

主催/七尾市、公益財団法人能登島ガラス美術館
後援/NHK金沢放送局、石川テレビ、テレビ金沢、北陸朝日放送、北陸放送、エフエム石川、ラジオななお
監修/平田幸子(バルファム編集長)、津田紀代(ポーラ文化研究所主任学芸員)
協力/香りの専門誌「バルファム」、ポーラ文化研究所、大理石村・ロックハート城
企画協力/イデア教育文化研究所、E.M.I.ネットワーク



4

4.冬景色文香水瓶
ドーム社/フランス/1910年代
ポーラ文化研究所蔵



5

5.FLOWER BY KENZO
KENZO/フランス/2000年
個人蔵



6

6.COMPLICE
コティ/フランス/1973年/個人蔵



7

7.NARCISSE NOIR
キャロン/フランス/1911年/個人蔵



石川県能登島ガラス美術館
NOTOJIMA GLASS ART MUSEUM

石川県七尾市能登島向田町125部10番地 〒926-0211
TEL0767(84)1175 FAX0767(84)1129
<http://www.city.nanao.ishikawa.jp/glass/>



8

香りとファッションの 美学展

L' exposition Esthétique du Parfum

～ 香水瓶が魅せる美の世界～

香水瓶は、目には見えない香りの表情を伝えるため、香水が持つイメージに沿うようにデザインされています。

フランス革命後、王侯貴族の間で流行していた香水文化が一般富裕層にも広まり、それまで愛用されていた陶器製の香水瓶から、中を見通す透明性や香水を変化させないガラス製の香水瓶が注目され始めます。ヴェネチアやボヘミアといったガラス工芸が盛んな地域では、それぞれの特性を活かした新しい様式の香水瓶が作られました。19世紀後半には、アール・ヌーヴォー様式を代表する作家エミール・ガレやドーム社により、自然の曲線美をモチーフにした優美なデザインの香水瓶が作られます。

やがて、گرانやキャロンといった香水商達も、自社が生み出した香水を入れる瓶のデザインに着目し、ガラス会社やガラス工芸家と連携して技巧を凝らした香水瓶を制作していきます。宝飾作家であったルネ・ラリックは、20世紀に入るとコティをはじめとする香水商からの依頼を受けてアール・デコ様式の魅力的な香水瓶を次々に発表しました。同じ頃、ファッション界においてブランド概念が確立し、現代にも続くシャネルやディオールといった有名ブランドが誕生します。そして、各ブランドのコンセプトや美意識を象徴する香水に合わせて、ガラス作家やデザイナーのセンスを強く反映した香水瓶がデザインされるようになります。

本展覧会では、個人蔵のコレクションを中心に18世紀末から20世紀までの洗練された香水瓶や、ポーラ文化研究所蔵の当時のファッション版画を合わせて約260点を展示、紹介します。香水瓶が表現する魅惑の香りの世界をご堪能ください。

- 8. 「DANS LA NUIT」ウォルト/フランス/1924年ポーラ文化研究所蔵/香水瓶:ルネ・ラリック
 - 9. 「温暖な夜 ウォルトのダンス用ドレス」『ガゼット・デュ・ボントン』フランス/1920年/ポーラ文化研究所蔵
 - 10. 「L'AIR DU TEMPS」ニナ・リッチ/フランス/1948年/個人蔵
 - 11. 「NUIT DE NOEL」キャロン/フランス/1922年/個人蔵
 - 12. 「NUIT DE CHINE」ロジヌ(ポーレ・ボワレ)/フランス/1913年/ポーラ文化研究所蔵
 - 13. 「AMBRE ANTIQUE」コティフランス/1905年(1995年復刻版)/香水瓶:ルネ・ラリック/個人蔵
 - 14. 「MITSOUKO」گران/フランス/1919年/個人蔵
 - 15. 「CABOTINE」グレ/フランス/1990年/個人蔵
- * 「香水名」制作会社 国名 香水制作年 所蔵先」の順に表記しています。
* 1～4は、「香水瓶名」国名 香水瓶制作年 所蔵先」の順で表記しています



12



9



10



11



13



14



15

会期中のイベント

魅惑の香り体験

王妃マリー・アントワネット、ナポレオン皇后ジョセフィーヌが使用した香りを再現しました。2人の女性が愛した香りをお楽しみください。

日時：展覧会期間中
参加費：無料 ※高校生以上は、別途入館料が必要
場所：展示室内

スペシャルギャラリートーク

本展の監修者である平田幸子氏と津田紀代氏のお二人に、香りの魅力についてお話しいただきます。

・「18～19世紀・香りの歴史」
話し手 香りの専門誌「パルファム」編集長 平田幸子氏
・「1910年代以降のファッションとブランド香水（クチュール、老舗香水メゾン）、ボトルデザイナー（ガレ、ドーム、ラリック 他）と香水瓶」
話し手 ポーラ文化研究所主任学芸員 津田紀代氏

日時：4月19日(土) 13:30～14:30
参加費：無料 ※高校生以上は、別途入館料が必要
場所：館内展示室

わくわくワークショップ

「自由に描こう! 香りのイメージ画」

5種類の香りの中から好きな香りを選び、その香りのイメージを葉書サイズの用紙に描きます。イメージする香りは、展示室にて展示されているものを使用します。

日時：5月4日(日)、11日(日)
①10:00～11:30 ②13:30～15:30
参加費：100円 協力：(株)ポーラ

のとじまガラス・スタイル

「オリジナルアロマ香水と香水瓶づくり」

自分で好きな香りを調香したアロマ香水と、アクリル絵具を使って自由に絵を描き自分だけのオリジナル香水瓶をつくります。

日時：6月22日(日) ①10:00～12:00 ②14:00～16:00
対象：20歳以上の方
定員：各回5人
参加費：2,000円 ※入館料込
講師：塚崎 早苗氏(セラスティーヌ主宰)

次回展

「ガラスの科学 ～美しき造形の秘密～」(仮称) 2014年 7月5日(土)～8月31日(日)

石川県能登島ガラス美術館 NOTOJIMA GLASS ART MUSEUM

石川県七尾市能登島向田町125部10番地 〒926-0211
TEL0767(84)1175 FAX0767(84)1129
<http://www.city.nanao.ishikawa.jp/glass/>

■交通案内
車 / のと里山海道徳田大津JCTを經由、能越自動車道と倉ICから車で約20分
電車・バス / JR七尾線と倉温泉駅で下車。能登島交通バス「のとしま臨海公園行き」で約30分、「美術館前」下車すぐ。
飛行機 / 能登空港から「ふるさとタクシー」で七尾・和倉方面へ約1時間(要予約)。

